拝啓

初夏の候、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。おうかがい申し上げます。

ドイツ在住の[redacted]です。先生の2022年1月7日のブログ「ワクチン脳の行きつく先」に、コロナ禍でのドイツの現状レポートを全文掲載して頂いた者です。その節は大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

振り返ってみると2022年の年明け、ワクチン接種が義務化するかも知れない目の前の現実に、不安な心中を吐露せずにはいられない極限状態に置かれていたのだと思います。そのような時、私の手を差し伸べて下さった長尾先生。私にとっては、お釈迦様、弘法大師のような方です。

さて、ドイツの現状ですが、ワクチン義務化は完全に廃案になった訳ではありません。いけないない、Lauterbachという保健大臣が再び冬になると義務化を言い出しかねません。こちらでも心配しかねるワクチン症候群の報道は、ほとんど皆無です。日本が医学を学んだお手本の国だったのに…。今回、コロナで悪用された、PCR検査法を開発し使用可能にした、無名高い免疫学者のクリスティアン・ドロステンがおりますから、又、ワクチン義務化の方向になだれ込むか、油断禁物です。

ミュンヘンの中心地は、住民と多くの観光客（アジアからはまだ少ない）でごった返しております。マスク着用義務は、病院・介護施設・公共交通機関の乗り物内のみなので、町ゆく人々を観察してみると、高齢者を中心に5%程度しか、マスクを着用しておりません。劇場は「マスク着用推奨」をしている所もありますが、ドイツ人は推奨ごときでマスクなどしません。先日、立て続けに、オペラとピアノコンサートに行きましたが、劇場内のマスク着用率は、やはり5%ほど。高齢者、コロナを異常に怖がっている人、基礎疾患のある人たちでしょうかね。その2つのコンサートで、子連れの日本人に遭遇しましたが、皆ちゃんとマスクを着用しておりました。同調圧力もほとんど無い、マスク義務でもないのに…。

コロナ禍で、未接種者として、ドイツで生きていくのは、筆舌に尽くしがたいストレスの多い日々でした。そのような中、コロナ禍でのドイツ人の行動を目の当たりにし、日本人の行動と比較したりして、考えさせられる事が多々ありました。

もともと、欧州は国家に対してデモで抗議する土壌があるので、ドイツのあちらこちらで、デモが行われたのは、日本と大きく違う所です。が、「言論・表現・集会・移動の自由」を掲げた民主主義国家のドイツで、あろうことか、各地でデモにどんどん規制がかけられました。ミュンヘンにおいても、夫が参加していた我が町ランツベルクでも、みるみるうちにデモが規制により小規模になり、挙句の果ては、デモが禁止され消え失せてしまいました。信じ難い光景でした。ミュンヘンには、Münchner Freiheit ＝ミュンヘン市民の自由、という駅名があるくらいなのに。すばらし、

ドイツ人の夫はコロナ禍、mRNAワクチンに当初から懐疑的でした。夫は「PCR検査法をコロナに使用するのは適切ではない」と裁判を起こしたUlrike Kämmerer弁護士のもとに、警察がやって来て家宅捜索し、彼女の携帯とPCを不当に押収した事件をいち早く知り、「この民主主義国家のドイツで、ただならぬ事が起きている」と気付き

まーにさんの教授はドイツ語圏の5ヶ国（ドイツ・オーストリア・スイス、南チロル、リヒテンシュタイン）の医者、学者、弁護士、心理学者、理学療法士、教育学者、経済学者などで設立された団体「Mediziner und Wissenschaftler für Gesundheit, Freiheit und Demokratie, e.V.」＝社団法人健康と自由と民主主義の為の医者と学者達」の主要メンバーです。この団体は「全国有志医師の会」のような組織です。又はこどもコロナプラットフォームのような組織です。彼女はグレートバリントン宣言の代表メンバーでもあります。夫は英語を始め、多言語が流暢なので主要TV、新聞メディアは報道しない、HPやYouTubeなどからの情報を収集し、そのままにならぬ事の背後にある動きを調べ始めました。

特に、Martin Haditsch教授がシリーズで制作された「Corona - auf der Suche nach der Wahrheit コロナ 真実を追求する」は素晴らしい動画です。イベルメクチンのコロナ治療薬としての有効性が非常に高い事を、この中でアメリカの救急救命医、呼吸器内科医のDr. Pierre Kory は熱心に語っておられます。また、この事実を議会へ呼ばれて話したにもかかわらず、その後、残念な事にイベルメクチンをコロナに積極的に活用して行く方向には全くならなかったと、インタビューで落胆されています。Haditsch教授は、自らコロナパンデミックは何かがおかしい、と感じている世界中の医者、学者、研究者にインタビューを敢行した貴重な番組です。

夫婦で、親子で、ワクチン接種やコロナに対する考え方が違い、関係がぎくしゃくしてしまった話を耳にしますが、私と夫は同じ考えで、未接種者として、われなき差別や弾圧をうけながらも、お互いに励まし支え合いながら、コロナ禍を乗り越えてこられたのは、不幸中の幸いでした。

また、夫の姉とその娘は我が町の大きな入院設備のある病院の看護師（この姪っ子はコロナ禍の時はICU勤務、現在ギーセン大学の医学部に通学）。そして、京都在住の姪は大学で助産学の教鞭をとっており、京都で行き来のある近い親戚家族は3人共皆、看護師（そのうち1人は京大のICU勤務）。ドイツ側でも日本側でもコロナ禍での病院の闇の部分やマスコミは絶対に報道しない実情を

このような親戚から「直」に聞けたのも恵まれた環境だったと思います。
ちなみに妹家族4人全員、その看護師の家族3人全員、ワクチン未接種です。
妹の夫はスイス人でチューリッヒ大学にて薬学を勉強しておりました。故に、裏での製薬会社や医者・学者達の怪しい動きをとうの昔から知っておりましたから、mRNAワクチンには初めから大反対で、マスクも日本では義務ではないので着けておりません。甥っ子の通っている小学校の校長にもマスクを子供が装着する事による弊害も認めて欲しいと直談判し、甥っ子はずっとマスクを着けずに登校しております。という訳で、同調圧力に弱い日本人らしくない、日本では一風変わった私の親戚にあります。

ところで、福岡での講演、ネット配信もされていたので、時差の関係で朝5時起きでしたがライブで長尾先生のお話を拝聴しにく、眠い目をこすりながら頑張って起き拝聴しました。福岡在住の女の親友は、私の薦めで、この講演に駆け付けてくれました。彼女は「長尾先生、ジャケット姿がさわやかで、自然体で良かったわ。」と感想をLineで送ってくれました。何か、先生にお助け頂いたお礼をと思いつつ、良いアイディアを思いつかず、このように先生の講演を近く住んでいる知り合いに薦めたり、先生の著書をプレゼントしたりして、間接的にお礼の代わりにさせて頂いております。

ドイツでのワクチン接種義務化は、すんでのところで施行されなくなりましたが、義務化して自ら欲しくない、中身の分からない、注射を強制的に打たれる直前までいった恐怖は、トラウマとなって心の中から消える事はありません。今後、巨大な闇の勢力が地球全体を覆う中、どのように、自分の身を守っていくか、悩める日々は続きます。

どんなに反対運動をしても、市民の血税を湯水のように使い、政治家・世界的な大企業、マスコミの言う知れない力によって、醜悪な建物が建ち、不必要な政府主導の大規模イベントが開催されます。が、これらの事は、自分の身体や健康には直接的に悪影響

及ぼしません。が、ワクチン接種義務は、自分の身体・健康に直接関わってきます。ひとりのワクチン接種義務化だけは、絶対に許すわけにはいきません。そして断固として阻止しなければなりません。その為に、同じ志を持つ者同士、草の根的に力を合わせ、巨大な闇の勢力に立ち向かって行かねばなりません。一人一人は大河の一滴のような存在で、簡単に太刀打ちできない相手だけれども、一雨だれ石を穿つ」の精神で仲間と共に、粘り強く頑張りたいと思っております。何故、このコロナ禍で、とりわけ「言論・表現・集会・結社の自由」を掲げた先進国を中心に、このような理不尽な事が、公然とまかり通るようになったのか。実は、コロナ禍以前から、このようなどす黒い勢力は水面下で蠢いていて、ただ、その覆いが剥がれただけなのだろうと考えております。紀元前の昔から、人の世は、そのような道理に合わない事有だらけで、何とかその解決の糸口を見つけたいが為、人々の心に癒しや安堵の泉を湧かせたいが為、抑えがたい感情に突き動かされた人が現れ、哲学や文学や芸術が生まれたのでしょう。

先日も、バイエルン州立歌劇場にバレエを観劇に行き、その2時間はたっぷりファンタジーの世界に浸れ、完全に現実世界を忘れさせてくれました。改めて、芸術のパワーを感じた次第です。そういう意味で、先生の映画やライブも、人々の、ともすれば沈みがちな心に、さわやかな風を吹かせてくれる事でしょう。私も映画が大好きなので、淡路島の長尾先生の映画3本立てを観たかったです。チャンジョージでのライブも…。身が京都の実家なら、すぐにでも伺うのですが、悔しい限りです。

ミュンヘンのバイエルン州立図書館の前に、ギリシャの偉人たちの像があります。その中の一人がヒポクラテスの誓いで有名な医学の父、ヒポクラテス。その誓いの中の特に以下の章は、コロナ禍で悪魔に魂を売ってしまった医師や学者や研究者たちに、つきつけてやりたい気持ちでいっぱいです。長尾先生はこの誓い通りの事を、全身全霊でなさっている。正に尊敬に値するお医者様だと思います。

「ヒポクラテスの誓」より抜粋

・自分の能力と判断に従って、患者に利すると思う治療法を選択し、害と知る治療法を決して選択しない。

・依頼されても人を殺す薬を与えない。

・同様に婦人を流産させる薬を与えない

・生涯を純粋と神聖を貫き、医術を行う

・どんな家を訪れる時もそこの自由人と奴隷の相違を問わず、不正を犯すことなく、医術を行う。

ヒポクラテス像の写真を撮って、長尾先生のお姿を思い出しながら印刷しました。お納めください。

是非、我が町ランツベルクにご遠慮なく、遊びにいらして下さい。関西弁ペラペラ、関西、吉本大好き(Mr.オクレさんの大ファン)のバイエルン人の夫といっても大歓迎です。ランツベルクは、中世の街並みが色濃く残る、ロマンティック街道沿いの美しい町です。ですがあまり知られていないので、観光客が少ないのが魅力です。以前、日本のkubotaのコマーシャルにも旧市街の街並みが映し出されました。1つの回が、長尾和宏監督、ランツベルク・オールロケの映画が出来たら、最高傑作になるのではないかと勝手に想像して楽しんでおります。

日本に里帰りした折には、先生と直接、スナックで語らえたらと、夢物語を描いております。(いやいや、その前にハンガリーでワイン片手に???)

時節柄、お体切にご自愛下さい。

令和四年六月一日

敬具

[redacted]

追伸　こちらでは季節に合わせた便箋を買えず、季節はずれの桜の便箋で失礼致しました。

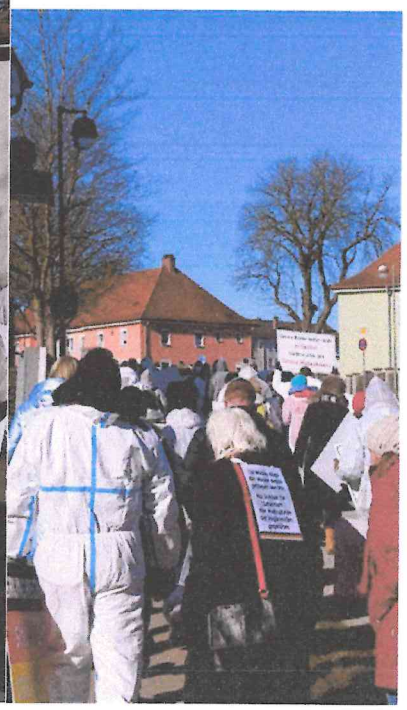
我が町ランツベルクにて コロナ政策・ワクチン接種義務・マスク着用義務への抗議デモ

2022 年 2 月 12 日

旧市街の真ん中で出来ていたデモが禁止され、旧市街の外でデモ行進！

人：私達は自分の身体を傷つけられない権利を持っている！

犬：子供たちに自由に息をさせて！



子供たちはコロナウィルスでなく
コロナ政策に苦しめられている！

マスク着用義務の強制より子供たちの笑顔を！

★HP や動画の URL

●Mediziner und Wissenschaftler für Gesundheit, Freiheit und Demokratie, e.V.
社団法人 健康と自由と民主主義の為の医者と学者達
https://www.mwgfd.de/

●Corona – auf der Suche nach der Wahrheit コロナ真実を追求する シリーズ

・Corona – auf der Suche nach der Wahrheit コロナ真実を追求する
https://www.servustv.com/aktuelles/v/aa-27juub3a91w11/
→Dr. Pierre Kory 医師がイベルメクチン騒動について語る(01:11:06ー01:21:07)

・Teil 2: Corona – auf der Suche nach der Wahrheit コロナ真実を追求する 2
https://www.servustv.com/aktuelles/v/aa-28a3dbyxh1w11/
→Dr. Ulrike Kämmerer 教授が PCR 検査裁判・家宅捜索について語る(7:20-14:50)

・Teil 3: Corona – auf der Suche nach der Wahrheit コロナ真実を追求する 3
https://www.servustv.com/aktuelles/v/aa-28zh3u3dn2111/

●Front Line COVID-19 Critical Care Alliance Prevention & Treatment Protocols for COVID-19
Dr. Pierre Kory 医師は、このフロントライン COVID-19 クリティカルケアアライアンスの社長兼共同創設者。
イベルメクチンの情報、動画なども視聴できます。
https://covid19criticalcare.com/

・ピエール・コリー医師 Dr. Pierre Kory (Wiki 日本語)
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%94%E3%82%A8%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%82%B3%E3%83%AA%E3%83%BC

・Prof. Dr. med. Dr. phil. Martin Haditsch:衛生学、微生物学、感染症、熱帯医学、ウイルス学と感染疫学の教授・博士 オーストリア人

・Dr. Ulrike Kämmerer:ドイツ ヴュルツブルク大学病院、ウイルス学、免疫学、細胞生物学の教授・博士